



## 福田 勝之

一般社団法人東北経済連合会 副会長

困難を乗り越え新たな一歩を踏み出す

近年稀にみる速度と値幅で円安ドル高が進んでいます。9月7日の東京外国為替市場では、一時144円台まで下落し、1998年以来24年ぶりの安値をつけました。今なお続く円安基調について日本商工会議所が行った調査によると、半数以上の中小企業等が「(円安は)デメリットの方が大きい」と回答しており、長く続くコロナ禍に加え、輸入原材料や燃料の価格高騰、それらに伴う物価上昇等により多くの中小企業等がダメージを受けています。

現在の円安は、国際情勢の悪化やコロナ禍の影響等で、通常は期待される輸出やインバウンド消費の増加といったメリットが思うように現れず、徒に物価高を助長し景気悪化を招く「悪い円安」と言われることがあります。

しかし、これから海外のマーケットを開拓し、日本の商品を世界で売り込んでいきたいと考えている場合、大きな好機と捉えることができます。地域の中小企業にとっては、困難の中で自ら新たな一歩を踏み出すことにより、向かい風を追い風に変えることもできるのではないのでしょうか。

全国の商工会議所では様々な形で地域の中小企業の海外販路開拓について支援を行っていますが、私が会頭を務める新潟商工会議所では、今年度から越境 EC 支援の専門企業等と連携し、総合オンラインストア Amazon を活用した北米向け販路開拓支援事業を実施しています。この事業は、テストマーケティングによる販促戦略提案から本格販売までサポートを行うとともに、費用の一部助成を行うなど、今まで越境 EC および海外展開に取り組んだことのない中小企業等にも新たにチャレンジしていただき易いスキームとなっており、現在6社がテスト出店の準備中です。手前味噌ではありますが、単独ではなかなか一歩が踏み出しづらい中小企業等の背中を押し、伴走型で支援することのできる有意義な事業ではないかと考えております。

さて、「新たな一歩」で申しますと、新潟空港を拠点とする地域間輸送 LCC『トキエア』が今年度内にも運航を開始する予定です。

仙台線をはじめ、札幌丘珠線や名古屋、関西方面への定期便就航を計画しており、2023年以降は世界遺産登録を目指す「佐渡」発着便の開設も目指しています。

仙台線の就航により、近いようで遠かった新潟と東北の玄関口たる仙台との距離が縮まることに大きな期待をするとともに、「地方」と「地方」の連携による経済の活性化やビジネス交流がさらに進展することを強く願っています。

((一社)新潟県商工会議所連合会 会頭・ふくだ かつゆき)